
2022年度 第2四半期決算説明会

2022年11月8日

日立造船株式会社

目次

- 財務情報 3
- 経営・事業情報 17

財務情報

専務執行役員 企画管理本部長
木村 悟

- ・ 前期に続き受注が順調に推移
- ・ 第2四半期で営業利益が黒字化（10期ぶり）

- ・ 前期に続き受注が順調に推移
- ・ 第2四半期で営業利益が黒字化（10期ぶり）

（単位：億円）

	2021年度		2022年度				
	1-2Q	通期	1-2Q		通期		通期見通 進捗率
	実績	実績	実績	前期比	見通し	前期比	
受注高	3,806	6,779	3,188	-618	5,800	-979	55.0%
売上高	1,804	4,417	2,072	268	4,800	383	43.2%
営業利益	-14	155	1	15	200	45	0.5%
営業利益率	-0.8%	3.5%	0.0%		4.2%		
経常利益	-28	117	-27	1	160	43	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	-30	78	-32	-2	100	22	—
ROE	6.1%		7.4%				

2022年度通期見通しの修正について：期初見通しから、次の通り修正を行った。

- ・ 受注高：5,000億円から5,800億円（環境 +800億円）
- ・ 売上高：4,400億円から4,800億円（環境 +370億円、機械・インフラ +10億円、脱炭素化 +20億円）

2022年度 第2四半期決算 セグメント別受注高・売上高・営業利益

(単位：億円)

	2021年度		2022年度			
	1-2Q	通期	1-2Q		通期	
	実績	実績	実績	前期比	見通し	進捗率
受注高	3,806	6,779	3,188	-618	5,800	55.0%
環境	3,198	5,294	2,443	-755	4,300	56.8%
機械・インフラ	424	971	466	42	900	51.8%
脱炭素化	144	430	234	90	520	45.0%
その他	40	84	45	5	80	56.3%
売上高	1,804	4,417	2,072	268	4,800	43.2%
環境	1,235	3,072	1,431	196	3,370	42.5%
機械・インフラ	367	863	391	24	880	44.4%
脱炭素化	162	399	207	45	470	44.0%
その他	40	83	43	3	80	53.8%
営業利益	-14	155	1	15	200	0.5%
環境	-7	124	-1	6	165	—
機械・インフラ	-6	22	3	9	28	10.7%
脱炭素化	-3	4	-5	-2	3	—
その他	2	5	4	2	4	100.0%

(単位：億円)

	2022年度			
	見通し			
	期初 a	前回(8月)	今回(11月) b	増減 b-a
受注高	5,000	5,000	5,800	800
環境	3,500	3,500	4,300	800
機械・インフラ	900	900	900	0
脱炭素化	520	520	520	0
その他	80	80	80	0
売上高	4,400	4,600	4,800	400
環境	3,000	3,200	3,370	370
機械・インフラ	870	870	880	10
脱炭素化	450	450	470	20
その他	80	80	80	0
営業利益	200	200	200	0
環境	165	165	165	0
機械・インフラ	28	28	28	0
脱炭素化	3	3	3	0
その他	4	4	4	0

（単位：億円）

環境事業（全体）	2022年度			修正理由
	見通し			
	期初	今回	増減	
受注高	3,500	4,300	800	9ページ 参照
EPC(新規建設)	2,100	2,400	300	
継続的事業	1,400	1,900	500	
売上高	3,000	3,370	370	
EPC(新規建設)	1,680	1,800	120	
継続的事業	1,320	1,570	250	
営業利益	165	165	0	
EPC(新規建設)	50	55	5	
継続的事業	115	110	-5	

（単位：億円）

環境事業 （Inovaを除く）	2022年度			
	見通し			修正理由
	期初	今回	増減	
受注高	2,050	2,550	500	
EPC(新規建設)	800	950	150	既に内定している案件を含めて、期初予算を超過する見通し。 国内AOM、売電事業（燃料費調整、価格アップなど）。
継続的事業	1,250	1,600	350	
売上高	1,850	2,090	240	
EPC(新規建設)	650	720	70	手持ち工事の順調な推移。 順調な受注及び進捗、売電事業（燃料費調整など）、海外子会社円安効果。
継続的事業	1,200	1,370	170	
営業利益	110	105	-5	
EPC(新規建設)	0	0	0	一部工事でコスト上昇。
継続的事業	110	105	-5	

Inovaグループ

受注高	1,450	1,750	300	
EPC(新規建設)	1,300	1,450	150	下期は大型案件2件予定。時期ずれリスクはあるが、1件でも見通し超過。 Steinmüller、Schmackの増加など。
継続的事業	150	300	150	
売上高	1,150	1,280	130	
EPC(新規建設)	1,030	1,080	50	手持ち工事が順調に進捗。 買収したSteinmüllerの売上貢献など。
継続的事業	120	200	80	
営業利益	55	60	5	
EPC(新規建設)	50	55	5	手持ち工事が順調に進捗。
継続的事業	5	5	0	

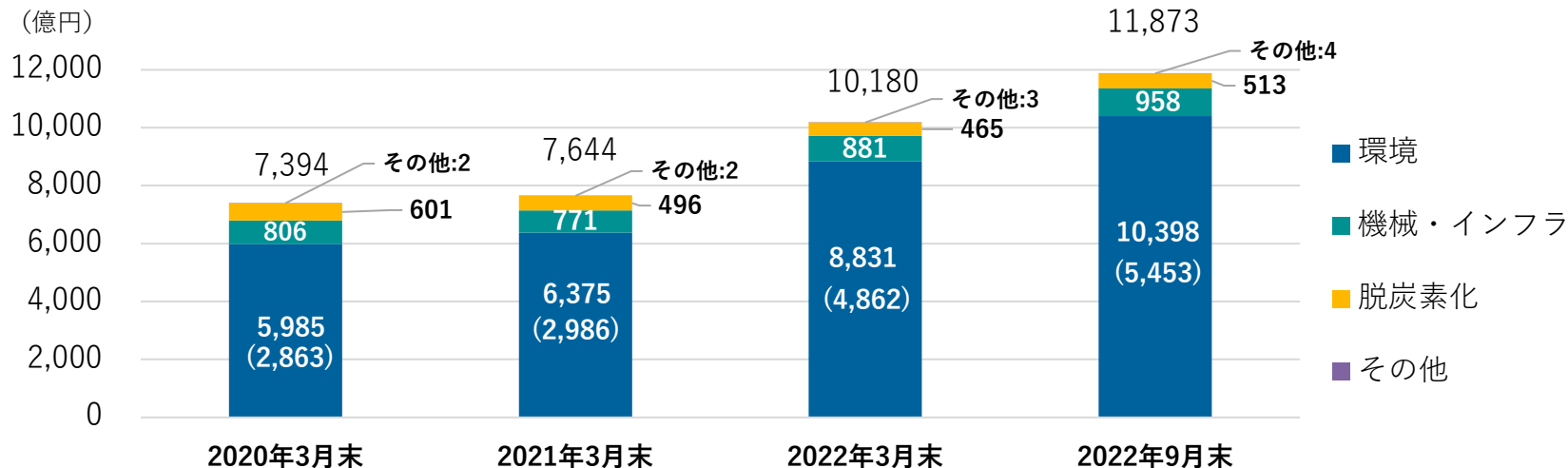
(単位：億円)

機械・インフラ事業	2022年度			
	見通し			修正理由
	期初	今回	増減	
受注高	900	900	0	
プレス	170	170	0	
精密	320	320	0	
その他機械	150	150	0	
インフラ	260	260	0	
売上高	870	880	10	
プレス	150	150	0	
精密	320	330	10	半導体関連が好調。
その他機械	140	120	-20	日本プスネス社の株式譲渡に伴う減少。
インフラ	260	280	20	シールド時期ずれ（前年度から）、橋梁の受注増。
営業利益	28	28	0	
プレス	3	4	1	コストダウン・固定費削減など。
精密	15	16	1	半導体関連が好調。
その他機械	5	3	-2	日本プスネス社など。
インフラ	5	5	0	

(単位：億円)

脱炭素化事業	2022年度			
	見通し			修正理由
	期初	今回	増減	
受注高	520	520	0	
エンジン	200	200	0	
プロセス	150	150	0	
PtG	30	30	0	
風力	140	140	0	
売上高	450	470	20	
エンジン	240	240	0	圧力容器の順調な受注及び進捗による増加、海外子会社円安効果。
プロセス	180	200	20	
PtG	20	20	0	
風力	10	10	0	
営業利益	3	3	0	
エンジン	0	-7	-7	資材費高騰の影響。今治造船との協業など、採算改善に向けて取組み中。
プロセス	2	9	7	
PtG	1	1	0	
風力	0	0	0	

受注残の推移

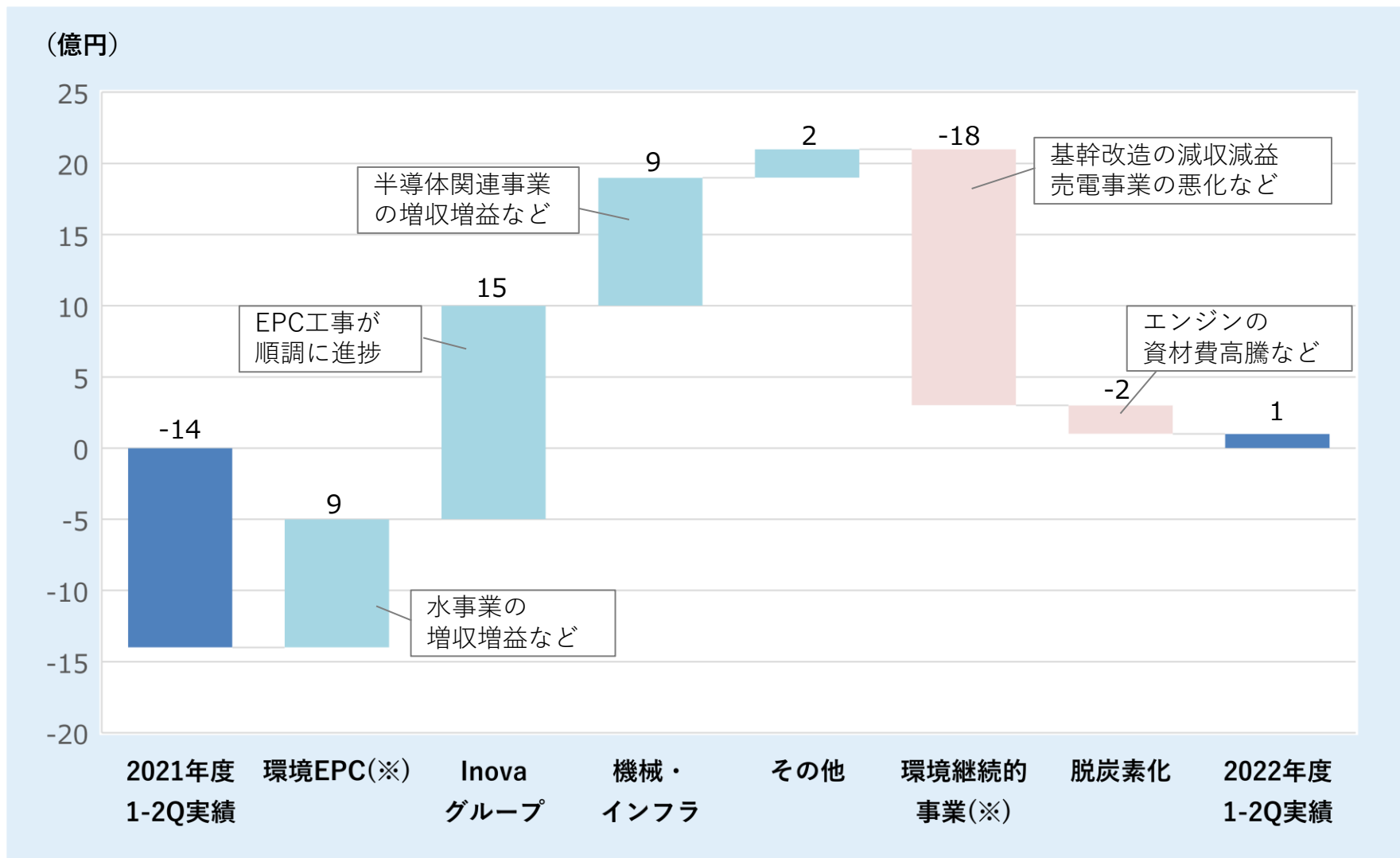


() 内は、環境に含まれる長期運営の受注残

受注残の年度別売上高展開

(億円)

	受注残	2022年度 (2021年度)	2023年度 (2022年度)	2024年度 (2023年度)	2025年度～ (2024年度～)
2022年9月末	11,873	2,569	2,813	1,749	4,742
2021年9月末	9,681	(2,134)	(2,053)	(1,245)	(4,249)
増加額	2,192	435	760	504	493



※Inovaグループを除く

2022年度 第2四半期決算 連結貸借対照表

(億円)

	2022年3月末	2022年9月末	比較
現金及び預金 (a)	672	893	221
営業資産	2,043	1,721	- 322
受取手形、売掛金及び契約資産	1,898	1,503	- 395
棚卸資産	145	218	73
有形・無形固定資産	1,220	1,200	- 20
その他	676	645	- 31
資産の部 合計	4,611	4,459	- 152
営業負債	1,009	1,110	101
支払手形及び買掛金、電子記録債務	718	588	- 130
契約負債 (前受金)	291	522	231
有利子負債 (b)	919	920	1
借入金(リース債務を含む)	619	620	1
社債	300	300	0
その他	1,354	1,179	- 175
負債の部 合計	3,282	3,209	- 73
自己資本	1,313	1,232	- 81
非支配株主持分	16	18	2
純資産の部 合計	1,329	1,250	- 79
負債・純資産の部 合計	4,611	4,459	- 152
自己資本比率	28.5%	27.6%	
ネット有利子負債 (b)-(a)	247	27	- 220

(億円)

	2021年度 2Q累計	2022年度 2Q累計	比較
営業活動によるキャッシュ・フロー	386	296	- 90
投資活動によるキャッシュ・フロー	- 8	- 61	- 53
財務活動によるキャッシュ・フロー	- 180	- 36	144
現金・現金同等物の増減額※	199	219	20
現金・現金同等物の期首残高	458	659	201
現金・現金同等物の期末残高	657	878	221

※為替換算差額含む (2021年度2Q：1億円, 2022年度2Q：20億円)

(億円)

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 見通し
総資産	4,095	4,293	4,611	4,710
現金及び預金	429	473	672	770
自己資本	1,180	1,264	1,313	1,390
自己資本比率	28.8%	29.4%	28.5%	29.5%
ROE	1.9%	3.5%	6.1%	7.4%
有利子負債	996	981	919	870
研究開発費	69	66	61	80
設備投資	103	108	80	100
減価償却費	101	102	107	100

貸借対照表の項目は、各年度末の数字

経営・事業情報

取締役社長兼CEO

三野 禎男

受注時期	案件	内容	仕様など	納期、運営期間
22年5月	水処理 汚泥再生処理センター建設 和歌山県御坊市	新たな汚泥処理センターの建設と、老朽化した既存施設の解体等	122kl/日	2027年3月
22年9月	ごみ焼却発電 ごみ処理施設整備運営事業 埼玉県久喜市	DBO方式（施設建設および完成後20年間の運営業務）	155トン/日 (2炉)	納期：2029年3月 (既存施設の解体含む) 運営期間：2027年 ~2047年



御坊広域行政事務組合による
汚泥再生処理センターの建設工事



埼玉県久喜市による
ごみ処理施設整備運営事業

2022年度上期 主要受注実績（海外）

受注時期	案件	内容	仕様など	納期
22年4月 (再掲)	ごみ焼却発電 : Inova ごみ焼却発電プラント 主要機器 英国	内容 : 主要機器の供給 客先 : Acciona Industrial UK Limited (最終顧客 : North London Waste Authority) 場所 : ロンドン インフィールド自治区 エドモントン	70万トン/年	2026年9月
22年4月	圧力容器 : 日立造船 圧力容器 (EOリアクター)	内容 : EOリアクターの製造 客先 : Shell Canada 場所 : カナダ アルバータ州 スコットフォード	基数:2基 重量:700トン/基	2024年 第1四半期
22年5月	ごみ焼却発電 : Inova ごみ焼却発電プラント EPC 英国	内容 : EPC 客先 : Indaver NV 場所 : 英国 エセックス州 Rivenhall	59.5万トン/年	2026年 第1四半期
22年7月	ごみ焼却発電 : HZI Steinmüller ごみ焼却発電プラント 主要機器 英国	内容 : 主要機器の供給、試運転業務 客先 : Fortum Glasgow Ltd. 場所 : 英国 スコットランド グラスゴー South Clyde Energy Centre	35万トン/年 45MW	2025年 第4四半期

環境事業主要プロジェクト（Inovaグループを除く）

■ 設計・施工 ■ 長期運営

	案件名	受注時期	完工(予定)	受注形態	当社所掌	暦年						
						2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
国内	大津新美化	2017年3月	2023年3月※	JV	DBO	[Design/Construction from 2019 to 2023, Long-term Operation from 2023 to 2025]						
	大津新北部	2017年3月	2022年6月	JV	DBO	[Design/Construction from 2019 to 2022, Long-term Operation from 2022 to 2025]						
	高崎市	2018年6月	2025年1月	単独	EPC	[Design/Construction from 2019 to 2025]						
	道央	2019年11月	2024年7月	JV	EPC	[Design/Construction from 2019 to 2024]						
	我孫子市	2020年2月	2023年3月	JV	DBO	[Design/Construction from 2020 to 2023, Long-term Operation from 2023 to 2025]						
	長岡市	2020年3月	2024年3月	JV	BTO	[Design/Construction from 2020 to 2024, Long-term Operation from 2024 to 2025]						
	宇城広域	2020年7月	2024年3月	JV	DBO	[Design/Construction from 2020 to 2024, Long-term Operation from 2024 to 2025]						
	佐賀県東部	2020年8月	2024年3月	単独	DBO	[Design/Construction from 2020 to 2024, Long-term Operation from 2024 to 2025]						
	清掃一組(江戸川)	2020年9月	2027年5月	JV	EPC	[Design/Construction from 2020 to 2027]						
	南薩地区	2021年2月	2024年8月	JV	DBO	[Design/Construction from 2021 to 2024, Long-term Operation from 2024 to 2025]						
	能代山本	2021年11月	2026年3月	JV	DBO	[Design/Construction from 2021 to 2026]						
	枚方京田辺	2022年2月	2026年3月	JV	DBO	[Design/Construction from 2022 to 2026]						
	久喜市	2022年9月	2029年3月※	JV	DBO	[Design/Construction from 2022 to 2029]						
海外	中国・上海海浜	2019年7月	2023年1月	単独	EP+SV	[Design/Construction from 2019 to 2023]						
	インド・ビダーデー	2020年12月	2023年5月	コンソーシアム	EP+SV	[Design/Construction from 2020 to 2023]						
	台湾・彰化県	2021年7月	2024年6月	単独	EP+SV	[Design/Construction from 2021 to 2024]						
	インド・モシ-	2021年9月	2023年5月	コンソーシアム	EP+SV	[Design/Construction from 2021 to 2023]						

※ 既存焼却炉の解体等を含めた工期

■ 設計・施工 ■ 完工後O&M

案件名 (国)	受注時期	完工(予定)	受注形態	Inova所掌	暦年							
					2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
イスタンブール(トルコ)	2017年 9月	2021年10月完工	JV	EP+O&M(1年)								
イヴリ(仏)	2018年11月	2024年4月	コンソーシアム	EP+SV								
モスクワ1-4(露)※1	2019年11月	2023年6月※2	コンソーシアム	EP+SV								
ロッキンガム(豪)	2020年 1月	2022年12月※2	コンソーシアム	EP+SV+O&M(長期)								
ニューハースト(英国)	2020年 2月	非公開	単独	EPC								
エンメンシュピッツ(スイス)	2020年 2月	2025年10月	単独	EP+SV								
スラウ(英国)	2020年12月	2024年11月	単独	EPC								
ドバイ(UAE)	2021年6月	2024年7月	コンソーシアム	EP+SV+O&M(35年)								
スケルトン・グレンジ (英国)	2021年7月	2025年7月	単独	EPC								
ウエストフィールド(英国)	2021年12月	2025年4月	単独	EPC+O&M(25年)								
ノース・ロンドン (英国)	2022年4月	2026年9月	単独	EP								
リーベンホール (英国)	2022年5月	2026年第1 四半期	単独	EPC								

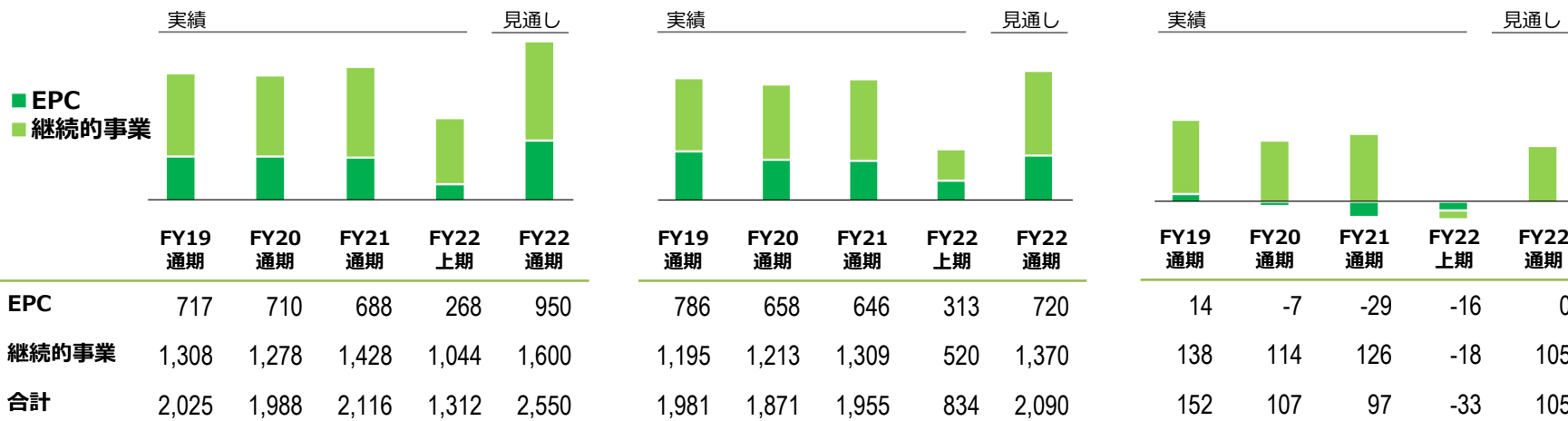
※1 モスクワ1は2019年度、モスクワ2-4は2020年度の受注

※2 遅延見込み

（単位：億円） 【受注高】

【売上高】

【営業損益】



国内EPC（ごみ処理施設など）

- 今年度の新設発注量は約4,000トン进行予想（前期比900トン増）。
- 当社受注目標は約1,500トン。

国内継続的事業（ごみ処理施設など）

- 基幹改造工事は自社既設先を対象としており、需要は一巡。
- 新設でのDBO方式（設計・建設・運営包括契約）増加によりAOM対象施設は減少傾向も、長期運営の受注残が順調に増加。

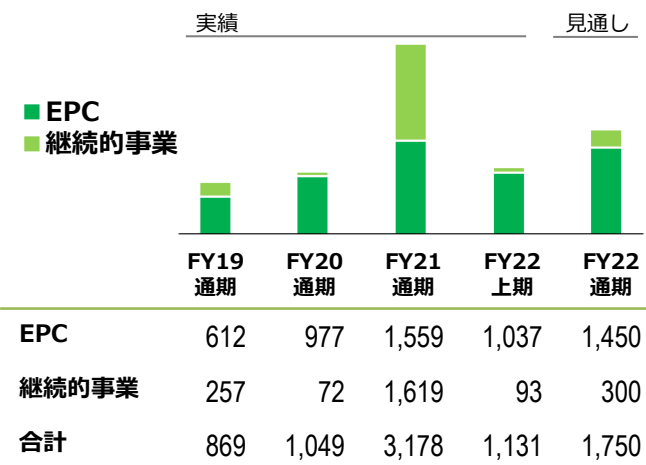
水事業

- 上期に受注が順調に進捗。
- 国内は新設横ばい、更新工事が増加傾向。
- 海外は途上国を中心に高い需要があるものの、コロナの影響により多くが停滞。
- Osmofloは受注、売上、収益とも好調に推移。

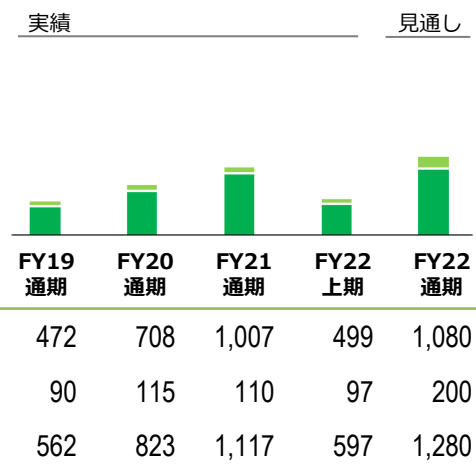
売電事業

- PPS（電力小売）が上期赤字。下期売上高は燃料費調整額の上乗せ、市場価格上昇連動により増収。下期損益改善をみず。
- 電力卸売は販売量の増加、電力価格上昇に伴い下期増益を見込み。

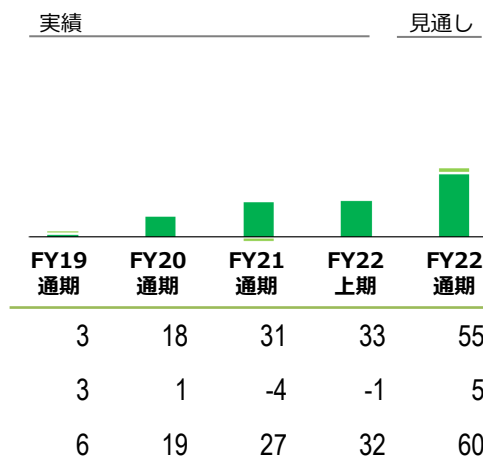
【受注高】



【売上高】



【営業損益】



市場環境

- ごみ焼却発電施設のEPCでは、欧州・中東市場において優位な状況が継続。
- EUは2030年までにエネルギー消費に占める再生可能エネルギー比率を45%とすることを提案。バイオガス生産施設を大幅増産する計画。

受注

- 今年度受注を計画している大型プロジェクト4件の内、2件を上期に受注（英国）。下期受注分の時期ずれリスクはあるも、今期収益への影響は限定的。

- 2月に子会社化したドイツのSteinmüllerは受注活動を順調に再開。今後は主要機器納入や基幹改造工事などを中心に行う。来期は固定費を回収し、黒字化する見込み。

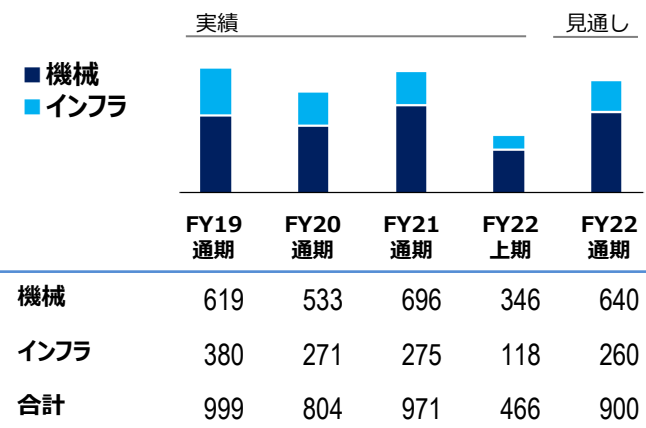
継続的事业（O&Mサービス）

- 2025年度には、Inovaグループ全体で300億円（250百万フラン）の売上高目標。

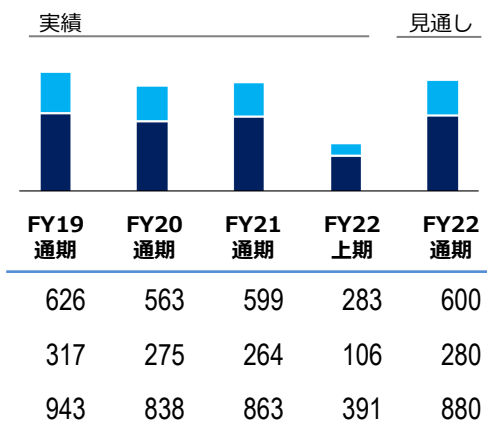
為替レートの影響（スイスフラン高・円安）

- 顧客から受取る外貨（現地通貨、ユーロなど）が一時的に滞留、為替差損発生。

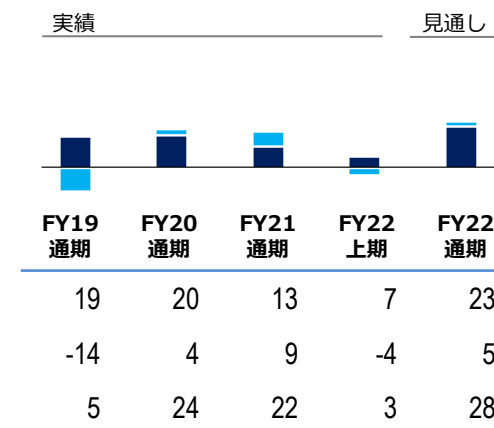
【受注高】



【売上高】



【営業損益】



プレス

- プレス機械（大型含む）の今期市場発注量は1,600億円と回復傾向（前期は1,433億円）。（出所：日本鍛圧機械工業会）
- 原材料価格高騰はあるものの、コストダウン努力、固定費削減効果で利益を確保。

精密機械、システム機械

- 真空バルブ市場の規模は、2021年の約1,200億円から、2030年には倍増を予想。
- 当社グループの半導体用小型バルブは堅調に推移。半導体向けラッピングプレートも好調。

その他機械

- 受注高：22年度年間見通し150億円に対して、2Q累計は89億円（進捗率59%）。

インフラ

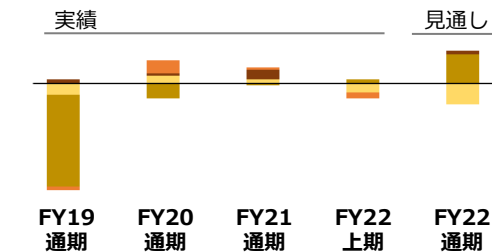
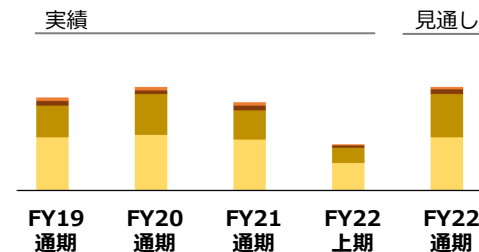
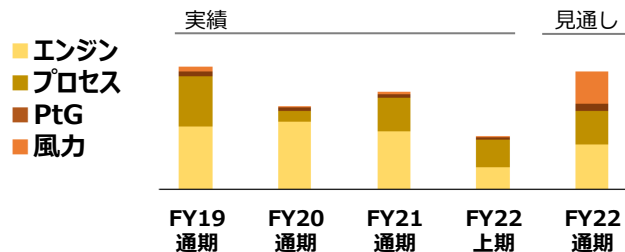
- 年間受注計画260億円に対して、上期118億円（進捗率45%）と堅調に推移。
- 橋梁：国土強靱化も進んでおり、昨年(18万トン)並みの市場発注量を見込む。
- 水門：今後は既存ダムの開発事業が活性化。当社の技術力、水門監視・診断システムなどが強み。ODA案件を中心に海外参入もめざす。
- 煙突：新設縮小も、撤去工事増加の見通し。

(単位：億円)

【受注高】

【売上高】

【営業損益】



	FY19 通期	FY20 通期	FY21 通期	FY22 上期	FY22 通期	FY19 通期	FY20 通期	FY21 通期	FY22 上期	FY22 通期	FY19 通期	FY20 通期	FY21 通期	FY22 上期	FY22 通期
エンジン	282	298	256	100	200	243	253	230	126	240	-4	2	1	-3	-7
プロセス	221	49	152	119	150	143	184	134	71	200	-29	-5	-1	1	9
PtG	21	15	12	11	30	20	17	19	6	20	1	1	3	-0	1
風力	17	7	10	2	140	18	16	16	2	10	-1	4	1	-2	0
合計	541	369	430	234	520	424	470	399	207	470	-33	2	4	-5	3

エンジン

- 高水準の需要が継続する一方、鋼材価格高騰などにより、損益は見通しを引き下げ。
- エンジン製造を分社化し、今治造船の35%出資を受ける（2023年4月予定）。採算改善と、環境対応製品の開発を推進。

プロセス

- LNGや石油化学プラントへの設備投資需要は、コロナ前の水準まで回復する見通し。
- 国内ではメンテナンス需要が増加。

電解・PtG

- 官民顧客からの実証用装置受注に対応。
- 当社自身も、グリーンイノベーション基金事業を含めた実証事業への取り組みを継続。

風力

- 陸上風力プロジェクト（青森県むつ小川原）は、今年度末のクローリングを旨ざしてパートナー企業とコストなどを調整中。
- 洋上風力プロジェクト（青森県西北沖）は、現在有望区域。コストダウン取り組み中。

■船舶エンジン事業の新会社設立

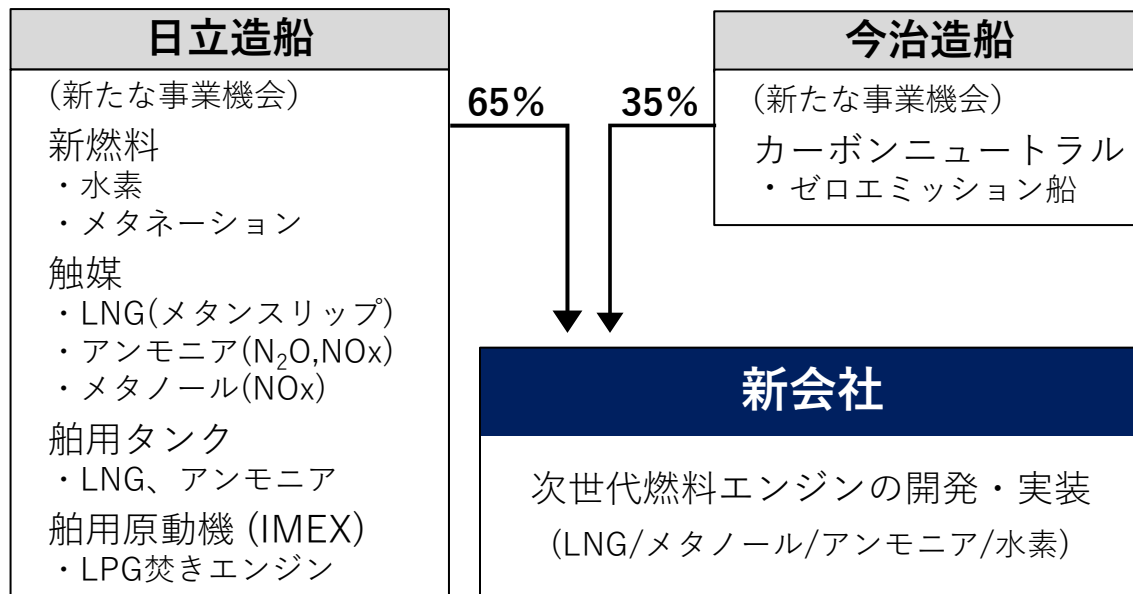
事業内容：
船用エンジンの製造および
アフターサービス

出資比率：
日立造船 65%
今治造船 35%

事業開始：
2023年4月（予定）

協業の狙い：

- 販売供給網の強化による売上拡大
- 原動機事業の収益力の改善(資材調達シナジーと生産性向上)
- 次世代燃料対応の原動機の開発および供給による温室効果ガス削減への貢献



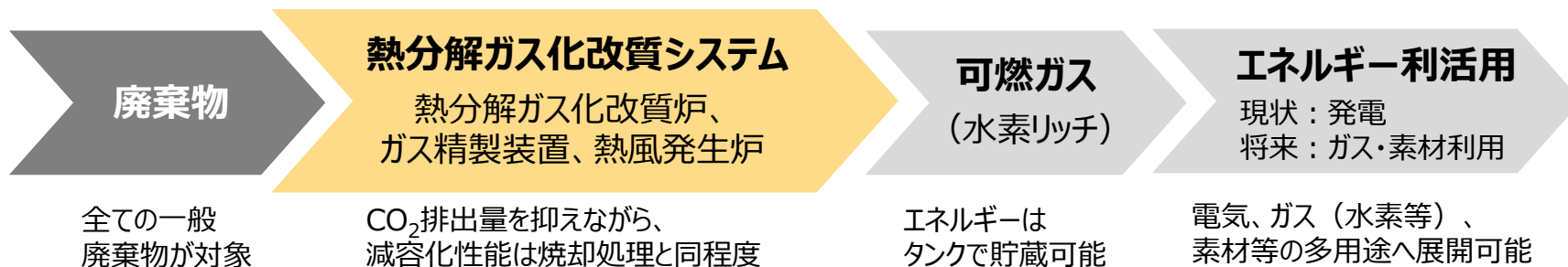
■日本プスネスの株式譲渡

- 甲板機械の製造販売・アフターサービスを行う日本プスネス株式会社の当社が保有する全株式（90.5%）を今治造船へ譲渡（2022年10月31日）

■環境省委託事業「次世代型廃棄物処理システムの開発」での実証運転を開始

- 高効率なエネルギー回収を目指した次世代型廃棄物処理システム
- 従来のごみ焼却発電は規模が小さくなると発電効率が低くなるために、小規模施設は発電しない施設が多い
小規模でも高効率な発電システムの実用化により、更なる廃棄物発電の普及を図る
- 本システムにより廃棄物中の可燃物を可燃ガスに変換することで、エネルギーや素材などへの利活用を図る

次世代廃棄物処理システムフロー



環境省委託事業概要

事業概要：当社が開発した新たな次世代型廃棄物処理システム（熱分解ガス化改質システム）の技術開発実証事業

実施場所：大阪広域環境施設組合 舞洲工場内

事業期間：2020年度～2023年度（予定）

処理能力：2トン/日



次世代型廃棄物処理システム 実証プラント

■ Hitachi Zosen Inova

英国で16件目、17件目のプロジェクトを受注

ノース・ロンドン（英国）

受注： 2022年4月

所掌： 主要機器供給

処理能力：最大700,000 トン/年

完工予定：2026年9月

リーベンホール（英国）

受注： 2022年5月

所掌： EPC（設計・調達・建設）

処理能力：595,000 トン/年

完工予定：2026年 第1四半期



リーベンホール 完成イメージ図

■ HZI Steinmüller

2022年2月に買収後、順調に受注獲得

サウス・クライド（英国）

受注： 2022年7月

所掌： 主要機器供給

処理能力：350,000 トン/年

完工予定：2025年 第4四半期

■当社グループの使用済燃料用キャスク・キャニスター事業

- 米国子会社NAC Internationalを中心に、原子力発電所の使用済燃料の安全な輸送・貯蔵のための容器であるキャスク・キャニスターを多数納入
- 将来は中間貯蔵における輸送・貯蔵に関するソリューションプロバイダーを旨とする
- 今後は国内でも、使用済燃料の安全・安心な輸送・貯蔵に向けたソリューション提供を旨とする

■東双みらい製造株式会社の設立

東京電力HD (67%)

「復興と廃炉の両立」の実現を目指し、福島県浜通り地域への廃炉産業集積に向けた取り組みを推進

日立造船 (33%)

国内外で使用済燃料等の輸送・貯蔵に係る技術・技能を蓄積



東双みらい製造株式会社

設立日： 2022年10月20日

資本金： 15億円

事業内容：輸送・貯蔵兼用キャスクや燃料デブリ保管容器の製造、販売

- 2025年度中の操業開始を目指して浜通りに廃炉関連製品の工場を建設
- 高機能製品を中長期的に福島で生産することで、地元の復興に貢献



地球と人のための技術をこれからも

日立造船はつないでいきます。かけがえのない自然と私たちの未来を。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

Hitz
Hitachi Zosen

日立造船株式会社 <https://www.hitachizosen.co.jp/>